



地域交流会で、新規就農者の石塚順一さん(手前)の話に耳を傾ける参加者。11日午前9時38分、岐阜市曾我屋(撮影・堀尚人)

担い手サミット県内交流会

岐阜の先進農業 発信

岐阜市で10日から始まった「第19回全国農業担い手サミットinぎふ」は11日、県内10地域で地域交流会を行い、県外の農業者が県内の先進的な農業施設を視察した。サミットはこの日で全日程を終えた。来年は高知県で開催される。

【関連記事19面に】

地域交流会には、県外の農業者計約1300人が参加。33コースに分かれ、就農研修施設や地域特産品の生産現場、農産物の加工場などをそれぞれ見て回った。サミットに合わせ、新規就農の事例を紹介するフォーラムなど関連行事も各地で開かれた。

岐阜地域の交流会の1コースでは、県外の参加者36人がJA全農岐阜の運営する岐阜市曾我屋のイチゴの就農研修施設を訪問。腰の高さで作業できる高設ベンチを使った栽培方法を見学したほか、施設の研修生の高井俊樹さん(57)や3年前に新規就農した石塚順一さん(36)から話を聞いた。